

-Index-

紙上報告 夏季研修会②「聴覚障がいのある幼児・児童・生徒を担当する教員研修会」
パトカーの赤色灯がかわります パラリンピックについて
ミニコラム セルフアドボカシースキルとは？



紙上報告！夏季研修会②

前号に引き続き、本校主催の研修会について掲載します。今号では、「第13回聴覚障がいのある幼児・児童・生徒を担当する教員研修会」の様子について、紙上報告します。

第14回聴覚障がいのある幼児・児童・生徒の担当教員研修会 令和7年8月6日（水）参加者37名

【全体講座】「聴覚障がいのある子どもが自立するために育みたい力」

本校中学部教諭 明石 慈英先生

全体講座では、「聴覚障がいのある子どもが自立するために育みたい力」をテーマに、聴覚に障がいのある子どもたちの自立に向けたアプローチのあり方について教えていただきました。参加していただいた先生方のアンケート内容を一部ご紹介します。



・先生の実体験に基づいたお話でわかりやすく子供たちの細やかな心情を説明してくださり共感できました。

・自分の難しい事、配慮が必要な事を周囲の人に粘り強く伝える事が、自分にとっての生きやすさの近道になるということですが、なかなかできることではなく、強い心が必要だと感じました
・私のもつ生徒も友達と遊ぶ、雑談をあまりしないので、明石先生と同じような困り感をもっていたのかなと気づかされました

- ・聴覚障がいのある人の気持ちや関わり方が少しでも理解できたのでよかった。
- ・教育者としてどんな力を身につけさせるべきなのかを考えるきっかけとなった。
- ・聴覚に障害のある子とのコミュニケーションのあり方について勉強になりました。

【選択講座】

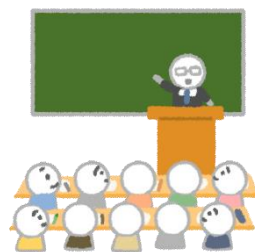
A 重複生における進路指導

- ・就職の段階の選択肢を実際に知ることができたことがよかった。
- ・手帳をもつ方が就職においてメリットがあるということが知れた。
- ・なんとなくしか知らなかったことを詳しく聞け、理解できた
- ・重複生の進路先についてお話を聞ける機会はほとんどないのでごく貴重な経験でした。



B 発音指導

- ・すぐに実践できる遊びとして取り入れられる指導方法を教えて頂き大変ありがたかった。
- ・聴覚障がいのある幼児に限らず、発音の気になる幼児が多いので普段の生活の中に取り入れたい。
- ・今年は生野聴覚の夏季研にも参加しましたが、また違った発音指導のネタを教えていただき、とても勉強になりました。
- ・2学期から学校の子達に返していきたいです



C きこえと補聴機器

- ・実際に補聴器を装着する場面が多いので、（保育園なので午睡、水遊び、自分で嫌がって外すなど）取り扱い方を知ることができてよかったです。
- ・実際に補聴器で聞いてみて聞き取りたい音声だけでなく雑音も大きく入ってくるので不快な事もあると感じ、幼児が自ら外す気持ちも理解できました
- ・補聴器やロジャーについて専任の先生に任せきりだったので、自分も担任として管理できるようにしていきたいと思いました
- ・実際に補聴器で音を聞いて貴重な経験になりました。

D 手話

- ・学校に使えるものに絞って、とても丁寧に教えてくださいました。
- ・知りたいことを質問できてうれしかったです
- ・実際に学校で使える手話を学ぶことができてよかった



【実践交流会】

- ・ いろんな種類の学校の先生の話が聞けてよかった。
- ・ 聾学校に勤めている先生から支援の工夫を聞け、また、生徒と接するうえで気を付けていることを聞けすごく学びになった。

・ 幼児の思いを読み取り、代弁することを繰り返すことで言葉が身に付けられるようにしたいと思った。

・ 実際他の学校で様々な児童を担当されている先生の話が聞けてよかったです。

- ・ 各学校の取り組みであったり、授業の工夫であったりを知ることができ勉強になりました
- ・ 自分が悩んでいることや自分がしていることの方向性が間違っていないことに気づけた。



アンケートのご協力、ありがとうございました！

冬には、12月25日に教員研修会「みみネットアカデミー」の開催を企画しています。

詳細については、11月号でお知らせします。ぜひ、ご参加ください。

パトカーの赤色灯が変わります！

これまで、全国で運用されていたパトカーは、緊急走行、通常のパトロール、いずれの場合も同じ0.5秒間隔で赤色灯が光っていました。そのため、聴覚障がいのある運転手はパトロール中のパトカーでも、近づく度に路肩に寄せるなどの対応をしており、当事者団体の要望を受けた警察庁が全国で新型の配備を進めています。

緊急走行	これまでどおり、サイレンを鳴らしながらの0.5秒間隔。
通常のパトロール	ホタルの光のように、およそ2秒の間隔でゆっくり光る。

大阪府警でも今年3月ごろから新型車両が導入されており、今後、車両更新の際に新型に入れ替えていくとのことです。



ミニコラム

セルフアドボカシーとは？

最近、聴覚障がいのある子どもが自立するために必要な力として「セルフアドボカシースキル」という考え方が注目されています。これは簡単に言うと、「自分に必要な配慮や助けを、自分の言葉で伝える力」のことです。

例えば、相手の声が聞き取りにくいときに「もう一度言ってください」とお願いする、グループ活動で「一人ずつ話してくれるとわかりやすい」と伝える、といった行動がセルフアドボカシーです。

合理的配慮をするだけでなく、自分で必要な配慮を求める力を育てることが、学校現場での必要な視点となってきています。

東京2025デフリンピック開幕！

みなさんは「デフリンピック（Deaflympics）」をご存じでしょうか？デフリンピックとは、きこえにくさのある選手たちが参加する国際的なスポーツ大会で、オリンピックやパラリンピックと同様に長い歴史を持っています。「デフ（Deaf）」は英語で「耳が聞こえない」という意味で、デフリンピックは、きこえない・きこえにくい人の世界最高峰のスポーツ競技大会です。

デフリンピックは1924年にフランス・パリで初めて開催され、2025年でちょうど100周年を迎えます。その記念すべき大会が、**今年11月、日本・東京で開催されます。日本では初開催となります。**

大会では、音によるスタート音や審判の笛の音が聞こえないことを前提に、視覚的な合図（ライトやフラッグなど）を使うなど、ルールが工夫されています。

2025年東京デフリンピックの大会期間は、2025年11月15日～26日（12日間）で、70～80の国と地域から約6000人が参加します。全部で21競技が実施予定で、陸上、水泳、バスケットボール、サッカー、柔道、卓球、テニス、空手などの競技が行われる予定で、競技数としてはパラリンピックとほぼ同じ規模となります。

次回以降は、デフリンピックで行われる各競技やデフリンピックならではのルールについて紹介します。**また、本校中学部の生徒のデフリンピック観戦記も掲載予定です。**

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：金森、只腰、萩原
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31
TEL: 06-7712-1405（支援関係）／ 06-6761-1419（学校代表）
携帯: 080-7008-9463（支援部専用） FAX: 06-6762-1800